

令和3年度 第1回

陸別町総合教育会議会議録
(公開用)

自 令和3年10月25日

至 令和3年10月25日

陸別町総合教育会議

令和3年度 第1回 陸別町総合教育会議会議録

招集の場所	陸別町役場 3階 委員会室			
開閉会日時 及び宣告	開会	令和3年10月25日 午前9時27分	次長	空井 猛壽
	閉会	令和3年10月25日 午前10時42分	町長	野尻 秀隆
出席者	町長	野尻 秀隆	○	出席 4人 欠席 1人
	教育長	有田 勝彦	○	
	教育長職務代理者	西岡 愛則	○	
	委員	小木 育子	○	
	委員	後藤 和美	×	
説明のため会議 に出席した 者の職氏名	次長	空井 猛壽		
	陸別小学校長	阿部 昌己		
	陸別中学校長	桜井 紀夫		
職務のため会議に 出席した者の職氏名	主任	角谷 亮輔		
会議に付 した事件	協議事項1 陸別町立学校の経営状況について			
会議の経過	別紙のとおり			

開会 午前9時27分

◎開会宣告

○空井次長 　ただいまより、令和3年度第1回陸別町総合教育会議を開会させていただきます。

後藤教育委員から欠席する旨の申出がありましたので、御報告をいたします。

それでは、初めに野尻町長から御挨拶よろしくお願ひいたします。

◎町長あいさつ

○野尻町長 　皆さん、どうもありがとうございます。御苦労さまでございます。

第1回陸別町総合教育会議を開催するに当たりまして、一言御挨拶を申し上げたいと思います。

日本もコロナの感染者、数が減ってきていまして、今、下げ止まりの傾向で少し安心しているところですが、世間の傾向をみると、まだまだ安心はできないのかなと。ただ、経済のほうも少しずつ、試行錯誤しながら回していくところに入ってきたのかなと、そういった感じのところでもあります。

今日、この時期でもありますし、月末の本当にお忙しい中、皆さん御出席いただきまして、誠にありがとうございます。

さて、本題に入ります。本町におきましては、教育行政に不都合があるというふうには思っておりませんが、国全体の制度改正であり、総合教育会議という場ができたわけですので、今後の教育施策について意見交換、また調整を行って、それぞれの思いや課題を率直に出し合い、相互理解につなげ、よりよい教育、さらには町政の推進に寄与していくことが大事だと、常日頃そのように思っております。

今日は、議案として1件であります。陸別町立学校の経営状況について説明させていただきますので、皆様方におかれましては、忌憚のない御意見を賜りますようお願い申し上げます。

以上であります。

◎協議事項

○空井次長 　ありがとうございます。それでは早速、協議事項のほうに入りますけれど

も、この後の進行につきましては、野尻町長にお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

○野尻町長　それでは、着席で進行させていただきたいと思います。

それでは、協議事項（１）陸別町立学校の経営状況について、事務局のほうから説明をさせていただきたいと思います。よろしくお願いします。

○空井次長　協議事項の１番目、陸別町立学校の経営状況についてでありますけれども、本日、参考人として、陸別小学校の阿部校長、それから陸別中学校の桜井校長を招致させていただいておりますので、まずは両校の校長先生からそれぞれ学校の経営状況について御説明をいただきたいと考えております。

それでは、陸別小学校の阿部校長先生、よろしくお願いいたします。

○阿部陸別小学校長　改めて、おはようございます。まずは、町長をはじめ教育委員の皆様、教育委員会の皆様におかれましては、日頃から学校経営のほうに御理解、御支援賜りまして、大変ありがとうございます。改めてお礼申し上げます。

それでは、私のほうから御説明申し上げます。座ったまま、失礼します。

お手元にある資料、少し分厚い資料になってはいますが、要点を絞ってお話させていただきます。

１枚目お開きいただきまして、令和３年度学校経営指導訪問協議シートというものがございます。今年度、学校経営上の課題として捉えていることが５点ございまして、まず１点目、４月当初に、１ページの上段に書かれている部分、１番上の枠です。①から③番、組織力の向上、学力・体力の向上、豊かな人間性の醸成、それから連携・協働の部分が課題として捉えておりました。

その後、１学期、前期が９月末で終わり、１０月以降は新たな課題として、次のページ、２ページのチェックというところなのですが、①から③の下に④、⑤ということで、人材育成と働き方改革について課題を挙げております。

順番にお話ししますと、まず①番の組織力の向上という部分については、おおむね達成できたのではないかなと考えております。それから、子どもたちの学力・体力の向上、豊かな人間性の醸成につきましては、後ろにありますけれども、１８ページから２０ページまでの間に全国学力・学習状況調査と新体力テストの結果が載っております。この結果を踏まえると、ほぼ全道平均並みの力を発揮しているところで、先生方の日常的な授業改善の成果が見られているのではないかなというふうに評価しております。

それから課題の３番目、連携・協働という部分で、例年ですと地域の皆様ですとか、保護者の皆様に御協力いただいて、様々な行事等行っているところなのですが、今年度につきましては、昨年度に引き続いて新型コロナの関係で、なかなか思うような学校経営ができていない、保護者と連携したものができていないなというところが課題となっております。

地域連携に関しましては、来月、学校運営協議会が行われますので、その中で協力いた

だけるところですとか役割分担をして、地域の力を借りて子どもたちの成長につなげていきたいなというふうに考えています。

それから、2学期以降、新たな課題として、④番人材育成の部分です。本町の教職員の特徴として初任段階層の教員、それから本校が2年目である教員がどうしても多数を占めていることから、いろいろな研修が必要なのですが、いわゆるOJT、先輩教師が初任段階ですとか経験の浅い先生について、仕事をしながらいろいろ指導をしていくというものがあるのですが、その部分については、なかなか先輩先生も自分の業務で手一杯なところがあって、後輩の先生を十分見てあげる時間がない、結論から言うと、人が足りていないというのが実情で、そういった部分でさらに工夫して進めていかなければいけないということで、後期、2学期以降の課題としております。

それから、働き方改革の部分です。今の話とも関わるのですが、教頭の業務が非常に多く、いろいろな調査への回答もあるのでありますが、今お話ししたように人がいない部分で、補欠授業と言って、担任の先生が休んだ時に代わりに授業に行かなければいけないということもあり、本来の教頭業務が十分できていない状況も見られています。また、一般の先生は、今お話ししたとおり、補欠授業をあまり作りたくないなというところで、自分の年休ですとか、あと、それこそ資質能力の向上のための研修会への参加もなかなか参加しにくいところがあるのかなというふうに考えているところです。

これら5点が本校の課題となっております。

それから、その後4ページに名簿を載せていますが、今お話ししたとおり、年齢構成上、経験校3校目の教員が2名しかいないということで、ほかは初任者もしくは2校目ということになっています。

それから、次年度、学級数の減が見込まれており、さらにこの中から2人教員が減る見込みであるというところで、道教委のほうにも加配というものを申請していて、何とか教職員数を確保したいなというふうに考えているところです。

5ページ以降、細々と書いているのですが、こちらは教職員に学校経営状況を振り返って課題となること、それからプラスと感じていることを挙げてもらいました。それらを踏まえて、13ページに10月以降取り組みたいことということで、11点整理させていただきました。整理したと言いながらも11点もあって、進行するのが大変困難なところもあるのですが、この11点を目標に現在のところ学校経営を進めているところです。

それから、資料ばかりで申し訳ないのですが、14ページ以降に教職員と児童、保護者に行ったアンケート、学校評価ですね、の結果を掲載しております。今お話ししたこれらの全ての結果を踏まえて、21ページ目以降に学校改善プランというものを用意しております。1学期の反省を受けて、学習面、生活面、子どもに関わる部分でこのような改善プランをもとに学校経営の改善を進めていくということで、教職員共通理解の下進めようとしているところです。

雑駁な説明ですけれども、以上で陸別小学校の経営について、お話終わりたいと思いません。ありがとうございました。

○空井次長　　ありがとうございます。

それでは、続きまして陸別中学校、桜井校長、よろしく願いいたします。

○桜井陸別中学校長　　おはようございます。

日頃より、それぞれ小学校、中学校にいろいろな御支援をいただきまして、本当にありがたく思っております。陸別町が子どもたちに対していろいろな期待を持っているなということがいろいろなところで分かります。それに応えるように、それぞれ小学校、中学校、我々を先頭に先生方を引っ張っていきたいと思います。また、今後ともよろしく願います。

それでは、中学校のほうを説明させていただきます。座って説明させていただきます。

今、小学校の説明があった次のページから中学校分の資料を載せてあります。ごらんください。

中学校分の1ページ、2ページ、これは十勝教育局の義務教育指導監が年に2回、学校訪問ということで、我々管理職に対していろいろなお話と、今後こういうふうに行きましようということで訪問があります。そのときに使っている資料を今回、載せさせてもらっております。

中学校、まず1回目が6月30日に行われました。小学校からもありましたように、まずは、今現状の6月段階での学校の課題ということで、中学校は箇条書きで8点挙げております。課題といっても、これが全てできてないとか悪いとか、そういうことではなくて、もっともっと何かこういうふうにしたいなと校長として思っているものも載せてあります。

この課題が、2枚目です。次の裏のページになりますが、2回目の訪問、9月30日、約3か月、ですから夏休みまで、夏休み後の1か月で陸別中学校がどのように変わってきたかということを経理目録でいろいろと提示しているのが2枚目の資料です。

成果と課題、分けて載せてあります。まず、成果については、どの学校もそうなのですが、今、子どもたちを育てるためには、当然学力というものが必要になっています。学力だけではないのですが、学力がやはりいろいろな意味で一つの目安として出されます。そのために先生方の授業、授業改善と言われるのですが、今やっている授業を通して、もっともっと児童・生徒に力をつけさせるためには何が必要かということで、校内での研修、あるいは町での研修、教育局の指導主事の先生方に来ていただいて、そこでの研修というふうに、陸別小学校、中学校合わせてかなりの数研修会を持ってあります。先ほど小学校からもありましたけれども、なかなか時間が取れないという面があるのですが、それでも工夫しながら進めていっております。

授業改善が全てではないのですが、5月に行われました全国学調の結果については、小学校、中学校合わせて、全国と同レベルかそれ以上というような、そういう結果になっております。先ほど言いましたように、点数だけではないのですが、一つの目安としてこの

辺はいろいろと評価されるところかなと思います。

どうしてこういうふうになってきているのかというのは、先ほど言いましたように授業改善はもちろんですが、やはり開始して3年になりました小中一貫教育、これで中学校は中学校だけでやるのではなくて、中学校の教員が小学校に行って、一緒にやっていくということで進めてきている面もあります。あとは先生方も同じ研修を今、ZOOM等で配信しながら、それぞれの学校でやっていっているということもあります。そういうものも含めて、小中一貫教育の成果が徐々に徐々に始まってきているのかなという、そういう感じですが、全てではないですが、そういうものも一つ成果として挙げられるかなと。具体的に言いますと、一番多いのはやはり外国語です。中学校の教員、人事の関係で今、中学校に英語教員が2名います。3クラスしかありませんので、本来は1人で十分授業は成り立つのですが、2人で、中学校の英語もやりますけれども、もう1名は専属的に小学校に週何回かな、3年生以上の小学校の外国語の授業と一緒に入って、担任の先生と併せてやっております。それに、今ちょっと空き状況になっていますが、ALTも一緒に入りまして、複数体制で小学校の外国語活動を進めている。外国語だけではなく、毎回ではないですが、算数の授業にも本校の数学教員が週に1回程度小学校に行っております。あとは、季節的な部分もあるのですが、体育だとか音楽、そういうものについても、今、小学校とどんどん、乗り入れ授業と言うのですが、そういうものを進めていっております。陸別町は以前から小中連携ということで進めてきておりますが、小中一貫というふうになってから、今まで以上に、しっかりとそれを体制的に組むことができているのかな。それが今後もっともっと続いて、もっともっと乗り入れ授業が活発になるような、そういうかたちをつくっていくことが必要かなというふうに思っております。それが1番と。丸で言ったら、これ課題の番号の丸なのですが、5番の小中一貫教育ということで。

それと6番、勤務時間の削減ということを盛んに言われております。教員、学校というのは、ブラック企業だといろいろなところから言われております。私ももう三十何年教員をやっていますが、自分としては普通にやってきたことが、こういうふうに時間をしっかりと調べていくと、一体何時間学校にいて仕事をしているのだろうか。ただ、小学校も中学校も、やはりやらなければならないことがあるので、子どもたちのためにそれをやっています。ただ、でも自分の健康だとか、家族だとか、そういうものを顧みずにやっていることも多々ありますので、学校の管理者としては、先生方の働き方改革ということもしっかりと進めていかなければならないかなと考えています。

よく間違えられるのが、働き方改革と言ったら、仕事の量を減らせばいいのかということがよく言われます。量は確かに減らさないと時間は減らないのですが、大事なことはやはり中身を精選して、本当にこれが必要なかどうかということをしつかりと議論して、学校として、ではこれとこれをくっつけようとか、これは違う方法でやろうとか、そういうことで進めていくことを今しております。一つは次年度に向けて、今、小中合わせて取り組んでいるのが通知表、皆さん方もお子さんのことでもらっていたと思うのですが、通

知表に総合所見欄という欄があります。子どもたちの様子を3行、4行でまとめていろいろと伝えていく欄があるのですが、担任の先生方がそれをする時間というのは大変なものなのです。数字で何点、何点とやるのは、データで出てきたりしますので、ある程度は機械的にできるものがあるのですが、一つの文章、正式な文章を保護者に伝えるということは、やはりしっかりと考えてやらなければならないので時間がかかります。普段の勤務時間中にもやるのですが、そこだけでは当然追いつかないので、時期的なものですが、その時期になると8時、9時まで学校に電気が点いております。全てがそのためではないですが、そこを何か変えられるものはないかな、総合所見欄がなくても大丈夫なかたちというのはないかなということで、小学校の校長とも話をしまして、総合所見欄をなしにすると。なしにしたら何も伝わらないではないか、ではなくて、それよりも、文章で書くよりも保護者と1対1で会って面談というかたちで、担任、部活の先生含めてじっくり話をして、いろいろな情報交換をしたほうがかえっていい面があるのかなということで、今、その準備をしているところです。これは本町だけではなくて、いろいろな学校、いろいろな町で今、盛んに進められていまして、その成果というのがかなり上がってきていますので、本町でもそういうふうに両校考えてやろうということで、それは一つ働き方改革の何かものになればいいなというふうに思っています。

あと、新たな課題というところで、7番のところ、今年度からタブレットが入っております。しっかりと子どもたち使っております。一番分からないのが、校長の私です。どういうふうにして、これどうやるのっていつも子どもたちに聞いたりなんかするのですが、あれに関しても町のいろいろな御協力の下、4月の段階でどんと入って、もうすぐ使える。ただ、やはり学校としては、使い方だとか、教員のほうのそれへの対応力だとか、そういうものにまだまだ時間がかかる部分があるかなと。今後は家に持ち帰り、子どもたちが家で宿題なり、あとは、いずれは授業配信だとか、そういうことも考えながら進めていかなければならないのですが、そういうものに対しても町の御支援のおかげで、今、進んでおります。まだまだ課題はここもあるのですが、今後もっと十分に効果があるようなかたちで進めていきたいなというふうに思っております。

そういうところが、今後の課題というよりも、もっともっとやらなければならないところかなということで押さえております。

あと、その次のページからは、中学校のこれまでの様子、4ページ、5ページ等にもあります。こういう形で進めてきましたと。あと、小学校にもありました学校評価アンケート、これについても分析等も行いまして、今後、この辺を考えてもっとやっつけようということで、確認をしております。あとは資料等になりますので、ごらんいただければなというふうに思います。

先ほども言いましたが、野尻町長はじめ、いろいろなかたちで子どもたちの未来のために、お金もそうですし、いろいろな施設もそうですし、いろいろな人材もそうです。いろいろなことで御支援いただいていることに本当に感謝申し上げます。何とかその期待に応

えて、今いる小学校、中学校の児童・生徒の未来を子どもが創っていく、この子どもたちが将来、陸別に何らかのかたちで戻ってきたり、いろいろなことに関わっていければなどというふうに思っております。今後ともまた、どうぞよろしく申し上げます。

以上、簡単ですが、説明を終わります。

○野尻町長　ありがとうございます。阿部校長、桜井校長、どうも御苦労さまです。ありがとうございます。

ただいま、説明が終わりましたので、これから質疑、意見、お受けしたいと思います。

協議事項としましては、1、2、3と、1から3まで区切られているわけなのですが、関連がありますので、小中学校の資料などから自由に、柔らかくでよろしいですから御意見をお願いしたいと思います。何か気づいたことでもありませんでしょうか。いかがですか。

西岡さんからひとつ。

○西岡委員　聞きたいのは、コロナ関係で、ずっともう1年半以上、マスクを常時つけっ放しなのですけれども、それでそういう悪影響みたいなのはないのですか。もう外してもいいのではないかという気もするのだけれども。

○野尻町長　それについてはいかがですか。まず、小学校の校長先生。

○阿部陸別小学校長　マスクの是非については、保護者から御意見をいただくこともあるのですけれども、文部科学省から「新しい学校の生活様式」というものが示されておりまして、それには、基本的にはマスクを着用というふうに書いてあるものですから、あとは、体育の時間とかは安全上外しましょうですとか、そういったこともそこに明記されているのですけれども、基本はそれに準じて、あとは各学校の実態に合わせてというかたちでやっております。例えば調理実習とかも、慎重にということを書いてあるのですけれども、本町の現在の状況を踏まえて、小学校では、例えば今週末から調理実習を開始するか、そういったように、多少柔軟な対応は取るようにはしています。

以上です。

○野尻町長　桜井校長先生。

○桜井陸別中学校長　中学校も基本、同じです。今日の朝も職員に話したのですが、今月の最終日曜日に文化祭がありまして、そこでマスクのいろいろな是非が当然出てくるのです。ふだんは学校でももちろんマスクをしているのですが、1番大きいのは、中学校は合唱をしますので、合唱でマスクどうなのと。これは本校だけではなくて、いろいろなところで。

この土日、いろいろな校長先生たちと話をする、そういう機会もありまして、校内的には取りたいのですよね。取ってしっかり長くやりたいのですが、やはりいろいろな状況、あと予防ということを考えると、今、この段階でマスクを取って向かい合ったり、距離は離すのですが、向かい合っている段階で、果たして合唱していいものか。まだもう少し、もう少し、不自由な面はあるのですが、マスクをしたまま今はやろうと。ほかの学校も大体まだマスクをして合唱等もしております。マスクをしてやるのだけれども、それは事前

に中学生のほうにも伝えて、その状況でできる最高のものを出してくれと。当然、いい状況、いい環境には持っていきたいのですが、まだその段階ではないだろうと。こういう席でも、まだ皆さん、私たちが含めてマスクしますよね。まだそういう時期なのかなと。

マスクについては、今後コロナがどこまで収まるかちょっと分からないですが、ある程度の予防策としては、学校、多数の子どもたち、いろいろな人が来る場所においては、マスクは必要なのかなと思います。ただ、内容によっては当然外してやりましょうと、そういうことは、今、小学校も言っていましたけれども、中学校でも同じようなかたちでやっておりますので、もう少し必要なのかな。子どもたちから、何か都合があって取りたいというときは申し出てもらって、それはちゃんと対策を取ってマスクを外したりだとか、そういうことをしております。そういうふうに言える子どもたちをつくるというのにも必要なのかなというふうに思っております。今現在、まだそういう段階です。

○野尻町長 西岡委員、それに関しては、どうですか。

○西岡委員 町長に聞きたいのだけれども、ワクチンの接種というのは、陸別はどのような感じなの。

○野尻町長 ワクチンの接種は、当初予定はもう終わったね。最初はやはりちょっと、副作用が皆さん、副反応ね、心配していたのだけれども、いろいろ先行しているところのお話伺ったら、やはり打たないでそういう怖さを感じるよりもやはり打って安心という感じのほうが強かったですね。

○西岡委員 子どもはもう大分進んだの。

○桜井陸別中学校長 中学生は昨日2回目打ったようで、やはり副反応、今日は、19名副反応だということで、とりあえず自宅で休んでおります。1回目のときが11名だったのですよね。2回目のほうがいろいろ出るというふうに言われていたりしますが、ただ1日、2日で治ってくるものですので、今日、明日はしっかり休んで体調整えてということで、今、進めております。中学生については何人接種したとか、そういう調査は全くしていません。それぞれにお任せしている状況ですが多くの子どもたちが接種しているようです。

○西岡委員 分かりました。

○野尻町長 よろしいですか。

ほかに何か。何でも。せつかくの機会ですから。

○西岡委員 あと、ちょっと言いづらいことなのだけれども、小学校のときも聞いていたし、中学校入ってもそうなのだけれども、先生の生徒に対する叱り方、これはパワハラになるのではないかというくらいの叱り方があるのではないかという噂があるので、その辺、どういうふうに把握しているのかなと。

○阿部陸別小学校長 私、陸別に来てからまだ半年なのですけれども、保護者のアンケートも取っていたりですとか、電話連絡とかもあったりするのですけれども、本校の教師ががつつり言って、どうなっているのだというのは、私把握している分ではあまり聞いて

おりません。昨年度までのことはよく分からないのですが、ちょっと1件、指導の仕方でのうなのだという問合せはあって、そのあたりは担任とも連携して保護者の理解も得ているところなのでは、というところでは。

○桜井陸別中学校長 中学校については、やはり小学校よりも言葉がきつくなるというか、そういう面はどこの学校でもあります。なぜそういうふうになるかといったら、やはり子どもたちの成長段階です。小学生と中学生の違い、あるいは中学生はこれから高校、あるいはその上、だんだん大人社会になっていくときに、駄目なものは駄目というふうにしっかり伝えるのが今の時期だというふうに、そういう教育をしております。ただ、言い方一つは、昔と比べたらやはり、昔と同じ感じで何か発したら、今の保護者は、それはどうの、それは言い過ぎではないのと、そういう話は来ることは確かです。それについては、その該当の教員としっかり話をし、以後の対策を考えて進めております。ただ、やはり学校としては、駄目なものは駄目というふうにしっかり伝えないと、そういうかたちで子どもたちに随時指導しております。当然言い方は、その言い方一つで子どもたちにいろいろな影響を与えてしまうこともありますので、そこはしっかりと考えながら進めていこうということで話をしながら今やっております。確かに、中学校としても何件かそういう話は来ておりますので、それについては校長として把握して、いろいろな対応を取っているところでは。

以上です。

○西岡委員 私も中学2年生の子どもがいるので、そういう話を、理不尽な怒られ方をしたという話を聞くこともあるので、その辺どうなのかなというのは思っただけですけれども。

○野尻町長 基本は先生方もその本人のために叱るというか注意するのでしょうかけれども、その生徒、また親の感じ方はやはりそれぞれ違って、そこら辺が理解できない面もきっとあるのかな。我々年配の者は、そのときに先生に怒られたら、お前が悪いのだと家で怒られて、先生は聖職で絶対だというものはあったのだけれども、やはり時代が変わってきて、いろいろそういう捉え方や何かの変化もあるので、その最低の基本線だけは守っていただいてやってくれる、これはなくならないのではないかなというふうに思うのですが、校長先生方も職員の先生方にはそこら辺、きつとしていることでは、また徹底していただきたいというふうに思います。

よろしいですか。

小木委員、どうですか。

○小木委員 働き方改革で、先ほど通知表所見欄の廃止ということを決めたということなのでは、それはやはり面談したほうが先生方の負担が少ないということでは、

○桜井陸別中学校長 負担を減らすということが第一ではなくて、面談したほうが3行、4行で言葉を書いて何かを伝えるよりも、実際にこういうふうに向と面を向かって、成績

ではこうでしたね、ここはもうちょっとこういうふうにやればこうなりますよね、学校生活でこういうことがあって、ただこういうちょっと駄目なこともあったのです、と伝えられる部分が大きいと。なかなか総合所見欄に駄目なことというのは……。

○小木委員　　ああ、書けないですね。

○桜井陸別中学校長　　書けないと言ったらあれなのですが、そういう面もあるのです。ですので、実際に顔を突き合わせて、そこでいろいろな話をしたほうがいいのかな。それで総合所見欄を書く時間というものもちょっと削られるなら、その面では働き方改革の一つにもなるのかな。それが全てではないですが。

やはりコロナ禍で、学校も保護者と接する機会というのが減っているのですよね。行事にしても、保護者は駄目とか、参観日にしてもそういうことがあって、実際に保護者と何か話をするといったら、児童・生徒の何か悪いときとか困ったときにこちらから連絡するだとか、保護者から連絡がきて、ではちょっと学校へ来てもらえますかと。そうではなくて、やはり保護者と話をするのは、悪いことだけではなくていいことも、そういうこともしっかり、子どもたちいっぱいあるので、そういうものを伝えていくという、そういうほうがいろいろな効果があるのかなというふうに、そういう思いで。まだ決定ではないのですけれども、一応そういうふうに、保護者のほうにも今後、案内を出そうかなと考えています。

○西岡委員　　私も、あれは廃止したほうがいいなど。いいことぐらいしか書いてない。あれ考える、書くのに相当時間かかるのだと思います。行数は本当短いのだけれども。

○野尻町長　　100字くらいか。

○西岡委員　　結構、この間見たらびっちり書いてあった。

○野尻町長　　ああ、そうか。そんなに書いてあるのだ。

○桜井陸別中学校長　　びっちり書くのですけれども、それでも100字ぐらいの中に、半年間なりのものを全部押し込めというのはまず無理なので。そういうふうになんて考えています。

○野尻町長　　そのほか、何かないですか。

○小木委員　　働き方改革で、勤務を超過している方々は、どんな思いでいらっしゃるかなど思ったのですけれども。そう言われている方々が。

○阿部陸別小学校長　　私も一般教諭の頃は、さっき桜井校長先生が言っていましたけれども、何でしょう。それが当たり前で生活していたものですから、私も中学校畑だったので、部活も指導した後、やはり教材研究とかといったら8時ぐらいにはなっていたので、今の人たちの気持ちも十分分かるのですよね。やはり、子どもたちのために準備しないといけないことは準備しなければいけない。持ち帰らなければいけないものは、本来駄目なのですけれども、例えば教材研究であれば、持ち帰ってやらなければいけないとか。それが当たり前ようになって、今ちょうど働き方改革という話が出ている中で、教員とはブラック企業だねということで、それこそ小学校の教員の成り手がすごく今少なくなっている

るとか、そういったことは我々も反省しているのですけれども、思いとしては子どもたちのためという思いが一番だと思います。どうでしょうか。

○桜井陸別中学校長 同じですね。これをやらなければ子どもたちが、不利益とは言わないのですけれども、子どもたちのためにならないかなというものがあって、やはりいろいろなことに時間を費やして。ただそれが、時間を使っているから「はあ」というのではなくて、やはり先生方はそれが使命というのかな。ただ、もう使命だけでやれるようなそういう時代では本当になくなってきているので、学校を預かる者として、やはり子どもたちも大事ですけれども、教員も当然大事ですので、教員の健康管理も私たちの仕事ですので、その辺はうまくバランスを取りながらやるしかないのかな。全てやめにして、4時半、4時40分で大体勤務が終わる時間なのですけれども、「はい、そこで皆さんきょうなら、学校を閉めますよ」と。本来的にはそれがいいのだろうけれども、なかなかやはり子どもたちがいたり、親との関係があると、そこまできちんとはできない部分があるので、それは徐々に、徐々にかなというふうに思っています。

○野尻町長 あと、そのほかいかがですか。せつかくの機会ですので。何でもよろしいのですけれども。

○有田教育長 では、私。小も中も、毎年、全国学力学習状況調査というのをやっているのですけれども、そのときに質問紙というのが小中それぞれあります。ふだんの生活の環境リズムを見るのものすごく重要なものだというふうに私は思っておりまして、今回もじっくり見たのですけれども、大体小中似たような感じでよかったのは、小学校で特に、朝食を全員食べています。「食べている」が小学校は全員なのですよね。中学校は若干少ないのですけれども、ほぼ朝食はしっかりと食べているというところは、生活リズムとしてはいいのかなと思っています。ただ残念なのは、やはりテレビゲームとか、そういうものに携わる時間が長くて、反面、小も中も家庭学習の時間がものすごく短いというふうに感じているのです。この辺の定着度というのは、学校での指導も当然しているでしょうけれども、各家庭での子どもに対する指導というか、一緒にどういうふうに見守っているのかなと。今後、ここの課題、家庭学習の取組みの時間、生活環境の改善というのは必要かと思うのですけれども、この辺に向けての対応というのをもし何かあればというふうに思うのですけれども、いかがですか。

○阿部陸別小学校長 小学校は、どこの学校でもそうなのですけれども、なかなかやはり協力いただける、御指導いただける家庭とそうでない家庭というのはどうしてもあるところで、基本的に陸別も出しているのですけれども、家庭学習の進め方ですとか、そういったチラシとかをまず配布して啓発を図っているという部分と、あとちょっと小学校は学年ごとでやり方も違うのですけれども、例えばやってきたノートについての評価を毎日きちんと返して渡しているですとか、そういった取組みで意欲を喚起したりとか。あと、将来的には、先ほどから話が出ているタブレットが今1台あたっていて、ドリル的なアプリケーションを入れてもらう予定でありますので、近い将来には持ち帰ってもらって、

それも宿題の一つとして取り組んでいけるような体制をつくっていきなというふうに考えています。

以上です。

○桜井陸別中学校長 中学校はやはり小学校よりもっともっと家庭学習してほしいなという、そういう思いは、私だけではなくて、学校の先生方みんなあります。3年生のこの時期ぐらいからは、どんどん増えてきます。それは、やはり目標がありますから。1年生、2年生はまだまだ。でも、小学校のときと比べたら、私、小学校から行ったものですから、小学校の彼らの様子というものもある程度知っているのですが、もう家では勉強したことないというような子どもたちが結構いました。必ずしなければというふうにもなかなか言い難いところもあるのですが、一応学校でやっている部分の復習だとかそういうものを含めて定着するためにもうちょっと頑張っただけというふうに進めてきていました。中学校も、教科担任制なので、教科でそれぞれ宿題を出したり、やってないところをこういうふうに来てという話をして、それが提出されてきます。やることについてはやってきます。ですので、提出が全然ないとか、そういうものはないです。ただ、時間については、2時間以上という生徒がほんのちょっとしかいない。中学生で2時間といたら普通のところですよ。3年生になると、もうそれどころではないような、そういう状況になってきます。先ほど小中一貫の話もしましたが、小中で学習の仕方、生活の仕方というものを成長段階に応じてつくっています。小学校1年生であればこういうふうに勉強しましょうとか、家庭ではこういうふうにしなさい、これが中3になると、徐々に徐々に、時間もそうですけれども、やり方だとか考え方をしっかりとできるような、そういう仕組みでつくっていて、教室にも掲示して、いろいろな折に子どもたちには話をするのですが、やはり保護者にももっとそういう面を発信しないと、協力してくださいというようなことが大きくなってきますので。それと、特に中学生はどうして家庭学習が必要なのかということ、やはりその意義だとか、そういうものをもっともって考えて、説明しながらやっていくことが必要なのかな。本当にまだまだ、その辺は少ないなというふうな、そういう感じはしております。

以上です。

○有田教育長 すみません。我々も含め、大抵の人が、もう少しやっておけばよかったなという後悔があるので、やはり後悔のないような学生時代を過ごしてほしいなというふうに思っています。

もう1点、いいですか。

○野尻町長 はい、どうぞ。

○有田教育長 さきほど小学校校長先生のほうからありましたが、特に働き方改革の関係です。教頭先生が補欠授業に入ったり、先生たちもなかなか休暇が取りづら、研修に行きづらという環境があるという、これ中学校と違うのは、中学校は教科担任制なので、多少1日の中でも空く時間があるのですけれども、小学校は担任制になっている

ので、朝授業に入ったら、6時間目が終わるまでずっと抜けられないということがあって、それが時間外につながっていくのかなというふうに思います。道費の教職員がいるのですけれども、それを補助するために町としては予算をつけていただいて、学習支援員だとか特別支援補助員を採用して配置しているのですけれども、まず現状も含めて今の人数が足りているのかとか、例えばもっとこういう人材が欲しいとかという話を聞かせてほしいのと、もう一つ、今年からタブレットを使って、これを、議案の2ページのところに、この春先から北村主幹のICT支援員としての実績の一部、載せています。要はタブレットをいろいろ使ったりして、この辺のセッティングだとか使い方というのがあるのですけれども、何か不具合があったら基本的に教頭あたりが窓口になって、教育委員会に連絡したり、業者に連絡したりするのですけれども、これを今、北村主幹がいて、これ一部ですけれども、日々、大体毎日、この不具合対応、全部やっています。この時間というのはものすごく、これもしうちの主幹が行っていなかったら、多分教頭たち、今の時間外勤務はもしかしたら倍ぐらいになっているかもしれないということもあって、これは、私としては、学校に派遣させることができよかつたなというふうに感じているのですけれども、この辺も含めて、町で臨時的に採用している職員についても、来年に向けての考え方も含めて、意見をいただければと思うのですけれども、いかがですか。

○阿部陸別小学校長 小学校としましたら、今、教育長お話をされましたけれども、現在、町費で学習支援員1名と特別支援補助員2名採用させていただいているのですけれども、教員の代わりに授業に行くということができないものですから、正直な話申しますと、例えば、道費では負担できないので町費で教職員、いわゆる補欠授業に入れるような教職員が1名いていただけると、教頭の負担も減るでしょうし、出張・研修等も先生方が抵抗なく行けるようになるのではないかなというふうに思っています。現実的には厳しいのも重々承知の上で、この場で言うのも申し訳ないのですけれども、実情としてはそんな教職員がいると大変ありがたいなという思いは持っています。

それから、ICT支援員ということで、今、北村主幹、本当に大きな戦力になっていて、主幹がいないと多分タブレット、ICTを活用した授業は成り立たないのではないかなというような状況です。例えば、授業が始まったときに、今日はタブレットを使ってこういうことをやりましょうと言った瞬間にタブレットが、Wi-Fiが繋がらなくなったりとか、トラブルは結構あるのですよね。そうすると、その1時間、計画していた授業が全く思いどおりに進まないというような実態があって、これは小学校だけではなくて、どこの町村の学校もそうだと思うのですけれども、やはり支援員が常駐しているような状況ですとタブレットのほうもスムーズに進むのではないかなと、最終的には子どもの学力向上等につながっていくものだというふうに感じています。

以上です。

○桜井陸別中学校長 中学校はやはり小学校とは根本的に仕組みが違います。教科担任制ということで、支援員とかそういう方に授業に入ってもらおうということは、一番考えら

れるのは、特別支援の子どもたちの支援ですね。当然、担任もいます。特別支援の担任もいますので、その担任が支援はできるのですが、やはりいろいろな子どもたちですので、そこでの支援というものが考えられるかなと。

あと大きいのが、中学校は部活ですね。今は部活の数も少ないですし、教員の複数配置というのもほとんどできています。ですので、その部の先生方でやりくりしながら、働く時間を少なくしながらという対応はしていますが、やっぱり主になる先生が専門の先生であれば、どうしてもその先生が、負担増とは言わないです、部活動は先生方好きなので、今日は休みだよと言ったら、何でというような、そういうような話もよく出てくる場所です。私も小学校の校長も部活動はずっとやっていましたので、ないと寂しいような。そういうものが今学校にいますので、ただ、そこへ部活動のいろいろな対応をしてくださる人がもし1人、2人といれば、部活担当の先生としっかり協議をして、ちょっとでも何か負担が減らされるのかなという感じはあります。

あとは、先ほども言いましたけれども、中学校は教科担任制です。今後、国の考えで小学校も教科担任制に徐々になってくると思います。できれば中学校と同じような働き方にしてもらいたいな。そうすれば、本当に先生方の研修だとか、あとは、もし今日、急遽私が休むとなって、私の授業が何時間か入っていたら、朝急遽、その授業を入れ替えることができるのですよね。数学だったものを、では、体育、ちょっと今日多いけれども、体育にするか。あと子どもに伝えて、それでやることのできることで、教頭が補欠に行くということはまずないのです。ですので、小学校が何かそういうふうな感じになればいいなというのは、去年小学校にいて本当に思いました。これだったら全然、いろいろな仕事が本当に後回し、後回しになってしまって、3時、4時ぐらいに職員室に帰ってきて、そこからテストの丸つけ、次の授業の準備、そこから始まります。その辺は中学校は授業の入らない時間があるので、そこでいろいろな仕事ができるので、その面は小学校大変だな。何とかこれは、システム自体を何とか変えてもらいたいなというのがありました。これは、町でのあれではないのですけれども。

以上です。

○野尻町長　あと。どうですか。

○有田教育長　いいですか、私の話で。

話したいことは沢山あるのですが、最後に一つだけ。この質問紙の関係なのですけれども、小学校でも3年生から外国語活動が入っています。中学校は当然、英語教科がありますけれども、質問紙を見ると、「英語が好きですか」というのは、小学生8割以上好きなのです。中学校にいくと、やはりちょっと下がるのですね。私とすれば、この8割以上好きだという気持ちで、何とか中学校まで続けばいいなという感覚を持っています。今は、中学校側が乗り入れ授業ですごく協力体制を取っていただいて、先生も来ていただいているという、大変いい形ができています。今、中学2年生が海外研修派遣していますけれども、残念ながら去年、今年、行かせてあげられていない状況です。何とか英語力を身につ

けて、カナダ、ラコームに行ったときにホームステイ先で、片言でもいいので会話をできるという達成感というのを、子どもたち自身が感じてもらうと、そこから英語をまた頑張ろうという気持ちになるかなと。これはやはり、どこかで苦手意識を持ってしまうと、ずっと伸びるのが難しいのかなというふうに思っています。今少し検討をしているところは、現在中学生の海外派遣事業はあくまでも希望制で、各家庭から参加負担金10万円いただいています。費用は一人当たり今、大体三十四、五万円程度ですけれども、そのうちの約3分の1ということで10万円負担いただいています。何とかこれを少しでも減らしたい、10万円の負担を無償までいかない、いくかどうかというところもあるのですけれども、少しでも減らしていけないかなという思いがあります。この辺について、負担金10万円の分も含めて、中学校側とすればどういう考えかということをお伺いしたいのですけれども、いかがですか。

○桜井陸別中学校長 中学校の先生と相談をしているわけではないので、私個人の考えになってしまうのですが、まず海外研修の目的がしっかりとされるべきだなと思います。海外に行っているいろいろな人と触れ合って、いろいろなものを吸収しよう、これはすごくいい目的ですし、それはもう大賛成です。ただ、本町では、小学校からこういうふうに英語、外国語活動をやって、当然中学校3年生までいくと、9年間、外国語に触れるのですよね。その最後の、中学2年生ですからもうちょっと卒業まで時間あるのですが、目標の一つとして中学2年生の海外研修のときに、ある程度外国語、英語が使えるようにするという、何かそういう目標、目的の一つ取って、それは小中一貫の一つの形として、そのために外国語をこれだけやりますよ。できれば外国でスムーズに英語が話せればいいのですが、なかなかやはり大変だと思うのですが、目的として、だから今、こういうふうにやりますよ、なので、町のこの研修に対して、親御さん、協力お願いします、なので、ここまでの負担で、町でこれだけ補助しますので、もっといきませんか。毎年、100%ではないようなのですよね。何人かやはり、それはいろいろな都合がありますので、強制はできないので、そういう目的をしっかりと持つ海外研修にして、なので保護者の皆さん、お願いしますと。子どもたちは行きたくないというのはあまりいないのですよね。当然、やはり行きたいと思うので、その辺はあと、また町の方にいろいろなお願いをしなければならないところかなと思います。

実は私、以前鹿追町に勤めていて、鹿追町もずっと前から海外との、カナダとの研修をやっているのですよ。私も英語の先生ではないのですけれども、一度一緒に行ったことがあります。鹿追町では、中学2年だったかな、そこまでに英語をではこれだけ、英語のテストなどもあって、そういうのもここまで取れるように頑張ろうという、そういう目標があって、もう二十何年前ですけれども、そこからもうずっと進めてきてたので、今話聞くと、結構カナダに行っても、子どもたちはいろいろなことを話せるようになってきているなというのは、聞いたことあります。そこまではなくていいのですけれども、しっかりとしたなんかそういう意識というか、目的、意識を持って参加できるような体制というの

は今後必要になってくるのかなというふうに、そういう思いはあります。

○有田教育長　　どうですか。教育委員会議でもちょっと触れたことがありますけれども、東京は3万円、それからカナダが10万円、東京については来年度実施しないという方向で考えていっています。陸別を中心とした体験型の研修を、町費で実施をしたいというふうに思っています。海外研修も以前から、大多数ではないのですけれども、この負担金の10万円について減額というような意見もいただいているのですけれども、ただ、今までずっと10万円で協力していただいた御家庭にはちょっと申し訳ないなという気持ちもあります。今後、今、桜井校長が言ったみたいに、何か目的、目標を持ってやるときに、これだけがネックというふうには思いませんが、少しでも負担を減らすことによって、今まで100%ではなかった参加者が100に近づけると今後よりいいのかなということで、これもなかなか予算に関わること、先ほど阿部校長が言いました町独自の、教職員の採用にしても、やはり予算かかるということで、いずれ検討の値はあるのかなというふうに思いながら、新年度に向けて取組方も教育委員会としては検討していきたいし、要望もしていきたいなという思いではあります。

○西岡委員　　そういう予算、町長。

○野尻町長　　そこら辺に関しても、委員会のほうとは正直、いろいろ相談して進めていることではあるのです。やはり、今もいろいろな意見聞かせていただいて、何か見えたなというような気はしているので、もう少し詰めていきたいなというふうに思っています。

あと、せっかくの機会だから、私からちょっといいですか。

この間の模擬議会、桜井校長、お世話になりました。

○桜井陸別中学校長　　はい、こちらこそ。

○野尻町長　　それで、中学校の2年生と3年生なのですが、2年生のときにはもう既にタブレットを質問席に置いて、ああ、もう溶け込んできているのだなとうれしい気持ちで見えていたのですが、家庭に持ち帰って、家庭に今もう、確かに小学生、中学生の保護者の方はまだ若くて、そこら辺もう詳しい方ではないかなと。そうでない方もいらっしゃると思うのですが、家庭での意見とか何とかというのは、それに関してはありますか。いいことだなとか。

○桜井陸別中学校長　　直接あったのは、今、子どもたちには、まだ毎日持ち帰らせてないのですよ。今多いのは、コロナの関係で、自分は何でもないのだけれども、家族、兄弟で具合が悪いというときには、自分も学校を休んでという、そういう対応をしています。これ、全国どこでもそうなのですから。そのときに、病気でタブレットを持ち帰って、では勉強しなさいよ、これはなしなのですから、自分は元気なので学校の授業を受けたいと思う子が当然いっぱいいます。そういうときは保護者から連絡をもらって、タブレットを取りに来てもらい、持って帰ってもらって、授業の配信をしているのです。英語なら英語の授業で、教室ではタブレットを乗せておいて、家ではその授業を受けているのと同じ感じになるのです。これは全員ではなく希望制ですが、積極的に活用してもらえる

よう周知し、実際それを使った保護者からは、担任のほうに、また何かあったらこれお願いしますと。私もたまに見に行って、そうしたら相手の子の顔が映るのですよ、下のほうに。それ見ながら、授業の合間にちょっと、「元気」というような話をしていると、ここで何かコミュニケーションが取れますので、それがやはりもっとうまく全員の生徒がそういうふうによればいいのかな。ただ、一つ心配は、これがあるから、では学校行かなくてもいいのではないかというふうに、変に思ってしまう子もいるので、何でもかんでもいいというわけではないのですけれども、ある程度条件だとかいろいろなものが必要になってくるかな。

あとはさっきも言いましたけれども、子どもたち、早いです。かなりもう進んでいます。授業でも、小学校はやはり低学年とかあるので、まだまだ授業に入っていけない部分もあるかなと思うのですけれども、中学校は、毎日、毎時間、何らかの形で使っています。それが学校としては学力の向上につながれば一番なので、その辺をまた今後、どのような形でもっとももっと伸ばしていけるかなということを考えながら進めていかなければならないな。やはりあればいいものですね。一つの道具としていろいろな面に使えますので、あれを使うことがメインになってしまったら駄目なのですけれども、あれを使って、こういう力をもっともつとつくよということが子どもたちにもっと伝わればいいなというふうに思います。保護者からは駄目という、そういうような意見は今のところ聞いてはいないです。

○野尻町長 小学校のほうはいかがですか。

○阿部陸別小学校長 小学校は、今お話あったように、低学年の子どもがなかなか操作してというのは難しいのかなというところで、高学年については準備を進めているような状況です。タブレットについては、ちょっとコロナで家族が発熱で来れませんとかというようなところの家庭からは、学習発表会の前だったので、学習発表会が不安なので、自分の役割のところ、映像に撮ったものをタブレットで見せますというような話もしたりとか。そういう意味では、保護者のほうにも浸透はしているのかなという思いはあります。

○野尻町長 分かりました。ありがとうございます。

委員の皆さん、せっかくの機会ですから。何かよろしいですか。いいですか。

(「なし」の声あり)

○野尻町長 せっかくですので、先生のほうから何か、校長先生のほうから何か御意見があれば伺いたいと思いますが、どうでしょうか。今までのお話の中でいかがですか。

○阿部陸別小学校長 すごいわがままな話で、人が足りないという話をさせていただいて、もうそれがやはり一番で、校舎なんかも、私来てびっくりするぐらい、とってもすばらしい校舎だなと思って、そのありがたみ、子どもたちは分かっているのかということもあるのですが、こんな立派なところばかりではないのだよということも何かのタイミングで伝えていきたいなとは思っています。すみません、ありがとうございます。

○野尻町長 桜井校長、何か。

○桜井陸別中学校長　いつも本当にありがとうございます。私、何町村か回ってきて、陸別がちょっと今、一番長くなっているのですけれども、ほかの町村の校長なり事務の先生等にちらっと話を聞いたことあるのですけれども、陸別町の教育予算というのは、この辺では断トツに高いのだよと。

○野尻町長　そうですか。

○桜井陸別中学校長　はい。もう断トツに。申し訳ないですけれども、人数も少ないし、税収だってどこまであるのか、やはりそういう心配はあるのですけれども、その割にはすごい教育に関する予算というのをつけてくれている町だと思います。僕ら、なかなか、その詳しいこの、どれがどうで何かというのは見るのだけれども、なかなか分からない部分はあるのですけれども、それを聞いたときに、ああ、やはり、一番最初にも言ったのですけれども、この子どもたちのために町として、お金の面もそうなのだけれども、いろいろな面でやっていただいているのだな、それに答えるのが学校だよなということで進めております。行くところによると、なかなか教育委員会にお願いしても、いろいろなものが回ってこなかったりだとか、それは分かるのですけれども、うちの教育委員会にもし何かお願いしたら、いろいろなことで、時間かかることも当然あるのですけれども、ぱっといろいろな対応をしてくれて、当然その裏には予算が、お金が絡んできますが、そういうものをいろいろな形で出していただいているというのは本当に感謝です。子どもたちは、子どもたちにお金あるのだよとは言わないですけれども、何かその辺は、陸別町の温かいところだなと思っておりますので、今後も本当によろしくお願いしたいなと思います。ありがとうございました。

○野尻町長　ありがとうございます。

それでは、時間もたってきたので、大体この辺でよろしいでしょうか。特別ないですか。

それでは、これをもちまして協議事項を終了させていただきたいと思うのですが、先ほどいろいろ御意見として出されました町費で職員の増だとか、いろいろなことも挙げましたけれども、この後も引き続き教育委員会、一生懸命やってくれていますので、また打合せをしながら、そういったことも、すぐできるよとはきっとこれは言えるところではないのですけれども、そういったことも含めて、また今予算がほかより多いというおほめの言葉いただいたのですが、これは町の伝統的なものと私、それは思っているのですね。やはり子どもは町の宝ですし、委員会もしっかりして、やはりそういう気持ちでいてくれますし、あと教育委員もそういったことでずっと伝統的にきていますので、そういうしっかりしたものがあるので町の予算をきちんとつけるということでは、全て満額つけるということはもちろんできないのですが、これからも伝統を大切にしていきたいなというふうに思っています。

そして、感じたのは、小中一貫教育のいろいろないい効果が出てきているなど、そういうことを感じますし、あとICT教育もやはりこれからはもう間違いなく必要なもので、うまく効率よく使っていただきたいなど、そのように思っています。

今日のこの総合教育会議というのは、教育委員会と町と協議、調整を進めながら教育行政を担っていくこととなりますが、先ほど委員申し上げました本日出された意見をそれぞれの立場で進められることを切に願っておりますので、我々もできる限りのことはしていきたいと思っておりますので、皆さんと力を合わせて一つの目標に向かって進んでいきたいと、そのように思っておりますので、よろしくお願い申し上げたいと思っております。

次に、その他ということですが、何か皆さんからはありますか。あればお受けいたしますけれども、いかがでしょうか。その他、担当、何かあります。特別ないですか。

(「なし」の声あり)

◎閉会宣告

○野尻町長　それでは、以上を持ちまして、令和3年度第1回陸別町総合教育会議を閉会します。ありがとうございました。

閉会　午前10時42分

会議録作成職員　角　谷　亮　輔